注目プログラム・商品開発の裏側

毎年新たなフィットネス商品やプログラムや商品が生み出され、それが新たなトレンドを生み出している。
近年、フィットネス業界でも新業態が次々に登場、業界を取り巻く環境が変わる中、新たに脚光を浴びるプログラムや商品の開発経緯や、開発者の思い、それがどのように市場に浸透してきているのかを取材し、今後のトレンドを探る。

お話を訊いた方
浅野俊介さん
MOBILITY CARE® ディレクター

five／モビリティケア®

ストレッチラインとユニークな動作整復法による新次元のストレッチコンディショニング

ｆｉｖｅ（ファイブ）は、ドイツ南部の小さな町ドナウエッシンゲン生まれの木製ストレッチ器具で、２００４年の販売開始以来これまでに世界19ヶ国１,４００拠点のフィットネスクラブやコンディショニングセンター、マイクロジムなどに導入されている。

日本では、２０１８年2月のジムナスタ竹ノ塚に、アジア初として導入されて以来、これまでに7施設に導入。メンバーにも好評で、口コミで会員数が増える実績も出てきている。

ｆｉｖｅの日本導入へのイニシアチブをとった株式会社文教センターで店舗マネージャー兼パーソナルトレーナーとして活動していた経歴を持つ浅野俊介さんは、その経緯についてこう話す。

「日本ではフィットネスクラブでも、ストレッチを習慣化できている人は少ないのが現状です。継続的にしている人もマットの上では代償動作が出やすかったり、ストレッチで可動域が一時的に高まっても、深部の抑制筋に対する作用が不足しており、筋力は低下してしまうケースが多いという課題がありました。２０１７年にＦＩＢＯで初めてｆｉｖｅを見たときに、このような課題感から『ピンッ』と来て、さらにサーキットラインのように使えることで、多くの人が同時に利用しても人が滞留しないイメージができたことも、すぐに導入に至った理由です」

既存店ではスタジオ一つをｆｉｖｅ常設スタジオに転換し、導入当初こそスタジオユーザーからの意見が多く寄せられるものの、半年も経たないうちに、好意的な意見がほとんどとなり、ｆｉｖｅ利用法のグループオリエンテーションを継続的に行うことでスタジオの利用率も高まる傾向が見られている。

腰痛持ちの家具職人と理学療法士の出会いから誕生

ドイツ 生まれ

開発したのはこの方！

理学療法士のヴォルフ・ハルバートさん（左）と、家具職人のクリストフ・リムバーガーさん（右）

ｆｉｖｅが生まれたきっかけは、腰痛に悩んでいた家具職人のクリストフ・リムバーガーさんが、通っていたフィットネスジムオーナーの紹介で民間療法としての腰痛治療に通い始めたことにある。そこでは、大木を積み上げたような装置に、腰を乗せて伸ばすだけだったが、クリストフさんの腰痛はみるみる良くなっていった。数回通ううちに、本業が家具職人のクリストフさんは、わざわざ車を運転して通うより、これなら自分で創れそうだと感じ、同じ形状の機能がついた家具を製作。自宅でしばらく使っていたが、自分の腰痛も良くなってきたことから、この腰痛治療を紹介してくれたジムオーナーに贈呈した。そのジムでトレーナーとして活動していた理学療法士のヴォルフ・ハルバートさんが、その効果に感銘を受け本格的に指導に活用するようになった。すると腰痛が改善する効果が口コミで広がり、見学者が急増。引き合いが増えたことから、クリストフさん、ヴォルフさん、ジムオーナーの３名で２００４年に会社を立ち上げ、本格的に販売をスタートさせた。以来、ドイツ国内から周辺エリアを中心にまたたく間に広がり、現在に至っている。

日本ではさらに、浅野さんがトレーニング指導経験の中で開発してきたコンディショニングメソッド「モビリティケア®」を行うことで、ｆｉｖｅの効果をさらに引き出すことができ、パーソナルトレーニングとしてのニーズも増えている。これは呼吸法を活用した動作整復手法で、乳幼児の動きの拠り所や発育発達をヒントにしたセラピー兼エクササイズ。ｆｉｖｅはもとより、ヨガやピラティスをはじめ、あらゆるエクササイズの準備段階として位置づけられ、ヴォルフさんとの世界に向けた共同開発や指導者認定もスタートする。

日本発の動作整復法「モビリティケア」が、fiveの効果をさらに引き出す

fiveの原型となった腰痛改善の装置

お話を訊いた方
大塚貴一さん
Da Vinci Body Bord協会
代表

Da Vinci Body Bord

ピラティス指導者が自身のダイエットのために開発
ファンクショナルとボディメイクトレーニングが融合

ダビンチボディボードは、ボードの四方に取り付けられたチューブにより、身体に3Dに負荷がかけられることから、ファンクショナルトレーニングとしても、筋トレとしても高い効果が得られることが広く支持されている要因。その形状からパーソナルトレーニングにも、グループエクササイズとしても注目されている。

また、米国で人気を集めているプログラム「Da Vinci Body Board SKY」も日本でスタートする。天井にチューブを取り付けるサスペンションと組み合わせたプログラムで、試験的に導入している店舗では予約があっという間に埋まってしまうほどの人気ぶり。その人気の理由は、天井からチューブをつるすことで、逆バンジージャンプのような新感覚を楽しむことができることと、空中姿勢をとることによるコアトレーニングとしてのこれまでにない効果にあるという。

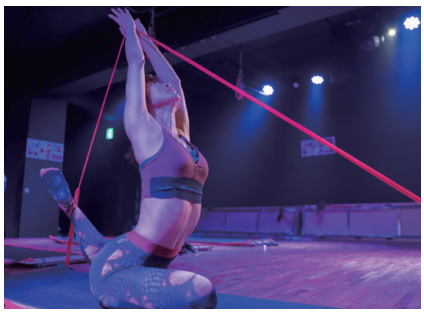
今後、導入フィットネスクラブを増やしていくために、2019年4月より法人向けの新プランを展開。通常1台98,000円のボードを10台までは無料で導入でき、3カ月に1回プレコリオプログラム動画を配信していく。

ピラティスインストラクターが、自身のダイエットのために自宅で考案

アメリカ生まれ

ダビンチボディボードは、米国で2013年に発売開始後、これまでに世界10ヶ国に広がり、セレブのエクササイズとしても話題となり、専門プティックスタジオのフランチャイズ展開も始まっている。

ダビンチボディボードを開発したのは、アメリカバーモント州でピラティスインストラクターとして活躍するフローリー・マホニーさん。自身のダイエットのために、自宅の家具にチューブを取り付けてエクササイズを始めたところ、ピラティスの効果に加えて、ボディメイクや心肺持久力の向上などの効果も同時に得られたことから、本格的に商品として開発した。ピラティスのエクイップメントに比べて、施設でも家庭でも手軽に購入できる形状と価格であることに加えて、チューブを活用することによる分かりやすさや楽しさが支持されて、ピラティススタジオやパーソナルトレーニングとして急速に浸透。メディアで取り上げられることが増えるとともに、2018年にはフローリーさんが、トリー・バーチ基金から注目の女性起業家として表彰され、ビジネスの世界でも露出を高めた。市場の広がりに応えてプログラムも拡充してきており、米国では、「+スカイボーディング」「+バレエ」「+ウォール」と展開が進められている。



新感覚で、グループでもパーソナルでも人気

開発したのはこの方！

ピラティスインストラクターのフローリー・マホニーさん

日本にも新たに導入されるサスペンションチューブを組み合わせた（Da Vinci Body Bord SKY）

お話を訊いた方
マーク・ミンターさん（左）
株式会社プロティアジャパン
代表取締役
エリカ・ミンターさん（右）
パフォーマンスヘルスシステムズ
アジア・パシフィック地区
マーケティング＆教育ディレクター

パワープレート® Brain Bones Balance

振動テクノロジーと、感覚刺激テクノロジーとの出会いが健康寿命の延伸に相乗効果を発揮

2019年5月に日本整形外科学会にて世界に先駆けてリリースされたブレインボーンズバランスは、パワープレート®の振動テクノロジーと、Nabosoマットの足裏の感覚刺激テクノロジーの相乗効果で、高齢者のライフパフォーマンスを高められるプログラム。日本でパワープレートの導入が進んでいるメディカルフィットネス領域から展開が進められている。2006年から日本でのパワープレート事業を進める株式会社プロティア・ジャパン 代表取締役のマーク・ミンターさんは、その経緯をこう話す。

「欧米では、パワープレートは主にフィットネスクラブに浸透し、これまでに世界100ヶ国で販売されるに至っていますが、日本では特に機能改善への効果が注目されており、メディカル領域での活用は世界的に見てもリードしています。2014年から大阪大学との共同プロジェクトとして、パワープレートを使用した動的バランス評価とバランス向上トレーニング法の研究開発を進めていることも、メディカル領域での展開を加速させています。今回、新たにパッケージングしたNabosoマットは、より高い機能改善の効果を目的としています」

足病医が開発したマットとのコラボで誕生

アメリカ生まれ

パワープレートはもともと1999年にオランダのプロバレーボールコーチが、選手のコンディショニングマシンとして開発したもので、独自開発の振動テクノロジーによる筋活性効果や筋膜リリース効果が注目されている。今回、ブレインボーンズバランスとして日本でも販売がスタートするNabosoマットは、米国公認足病医でムーブメントスペシャリストのエミリー・スプリチャル博士が開発、2018年に米国で発売開始されたばかりの新商品。スプリチャル博士はベアフットトレーニングの権威としても知られており、メディカルカンファレンスにパワープレートの開発スタッフが参加した際に、当時まだ開発中だったNabosoマットに出会ったことがきっかけとなった。

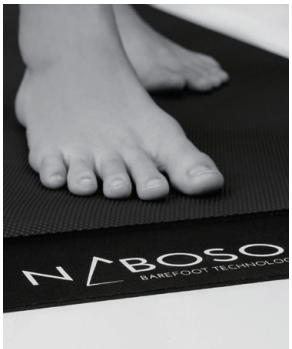
Nabosoマットは、表面の突起の高さと幅、硬さが、足裏の感覚受容器を最も効果的に刺激することを追求して開発されており、足裏からの感覚刺激が増えることで、神経システムが活性化され、それにより筋肉への刺激が増えるだけでなく、バランス感覚や認知機能の改善にもアプローチできる。

さらに、パワープレートとNabosoマットの相乗効果が得られる状態で、デュアルタスクのエクササイズを行うことで、さらなる認知機能や動的バランスの向上が期待できる。また、振動により骨が刺激されることで、骨密度の低下からくる骨粗しょう症の予防も目指している。こうした効果を最大化できる15分～20分程度で行えるプログラムDVD付のコンシューマーキットを2019年5月に発売開始したことに続き、7月には、施設向けのプログラム展開もスタートする。プロティアジャパンでは、今後も「Live Active」を理念に、生活者の各ライフステージ別に生活のパフォーマンスを高めるソリューションを提案していくことを計画している。

開発したのはこの方！

米国公認足病医でムーブメントスペシャリストのエミリー・スプリチャル博士

足裏からの感覚刺激が増えることで、神経システムも刺激され、高齢者の認知機能向上や転倒予防にも効果



Nabosoマットの感覚刺激テクノロジーがパワープレートの効果を引き出す

お話を訊いた方
秋本めぐみさん
ライフ・フィットネス・ジャパン株式会社
マーケティング　プロダクト・マネージング

ライフ・フィットネス　パフォーマンス・ラン

HIITトレーニング人気と、セルフ型ジム拡大で HIITがセルフトレーニングへ

米国のマシンメーカーとして50年以上の歴史を持ち、カーディオトレーニングマシンで世界トップレベルのシェアを持つライフ・フィットネス。2018年7月、カーディオの最上位機種エレベーションのトレッドミル用コンソールSE3HDに、HIIT（ハイ・インテンシティ・インターバル・トレーニング）が効果的に行える、パフォーマンス・ラン機能を追加した。

HIITは、高い強度のトレーニングと、低い強度のリカバリーを繰り返すサーキットトレーニングで、その効果の高さが注目されている。クロスフィットジムが世界的に急拡大する中、自重トレーニングを基盤にしたスモールグループプログラムとして、フィットネスクラブにも浸透している。その一方で、小規模業態の開発も世界的に加速し、バジェットタイプ（低価格）ジムや、24時間タイプのジムも急増し、こうした施設でのセルフトレーニングを行う人も増えている。このHIITセルフトレーニングのニーズに同時に応えるべく開発されたのが、パフォーマンス・ラン機能である。日本でも同時にリリースされ、フィットネスクラブや公共施設で、いち早く利用が広がっているという。

「米国ではHIIT市場の拡大とともに、『HIITランニング』『パフォーマンスランニング』のコンセプトで、サーキット形式でのトレーニングが急速に浸透しています。こうしたトレーニングでは、繰り返し瞬時に強度を変えることが必要ですが、これまでのトレッドミルには、すぐに速度や傾斜が変えられる機能がありませんでした。ワンタッチで、速度と傾斜を変えられることで、走りながら安全に操作できるとともに、ターゲットする強度に瞬時に設定できることから、セルフでも安全に効果的なインターバルが行うことができます」

フィットネス大好きなエンジニアが、最新トレンドに応えて開発

アメリカ生まれ

パフォーマンス・ラン機能を開発したのは、ライフ・フィットネス社、アソシエイト・プロダクト・マネジャーのウォーカー・サリバンさん率いる開発チーム。米国ではデジタルヘルス市場の急拡大を受けて、テクノロジー業界で活躍するエンジニアがフィットネス分野の製品開発にも関わることが増えているが、ウォーカー・サリバンさんもその一人。テクノロジーを専門分野としながらも、フィットネスにも情熱を持ち、生活者のトレンドや、医科学的エビデンスの最新情報を常にフォローしながら、フィットネスマシンを進化させてきている。

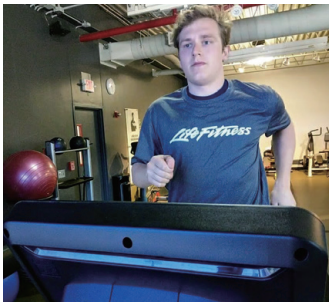
パフォーマンス・ラン機能が搭載されたSE3HDコンソールには、これまでもフィットネス業界トレンドや、ユーザーニーズに応えた様々な機能が搭載されており、エンターテイメントコンテンツとの連携や、アップルウオッチでの生体データとの連動、ライフ・フィットネス・のアプリ「LFconnect」での運動履歴の記録やフィードバックなどの機能もあり、広く支持されている。既にSE3HDコンソール付のトレッドミルを導入しているクラブでは、設定を変えるだけで簡単にパフォーマンス・ラン機能を導入することができる。

今後もトレーニングのトレンドに合わせた機能を拡充しながら、より多くの人々の、フィットネスライフをサポートしていくことを目指している。

開発したのはこの方！

ライフ・フィットネス社で開発チームを率いるウォーカー・サリバンさん。

ワンタッチで傾斜と速度が操作でき、走りながらでも安全に瞬時に設定が可能。



テクノロジーを専門分野としながらも、フィットネスにも情熱を持つ開発チームが、安全性と性能を検証。

お話を訊いた方
村松恵太さん
株式会社ブラボーグループ

TRIBE Team Training

チームのコンセプトで、効果を高める スモールグループトレーニング

近年世界的なフィットネストレンドとして注目されているスモールグループトレーニング（以下、SGT）。欧米では、グループでもパーソナライズされた指導がより安価で受けられるとともに、仲間で行うことで、強度の高いトレーニングでも楽しく継続できることなどが支持されて有料プログラムとして市場が広がっている。このSGTの世界的トレンドにいち早く着目したブラボーグループ代表のジョン・ボードマンさんが、日本にも導入しようと、世界に多種多様に展開されているSGTコンテンツやプロバイダーを調査。ニュージーランドに本部を置くTRIBE Team Training（以下、トライブ）が最良のソリューションだと判断した。だが、日本のフィットネスクラブの市場環境が欧米と異なることから、日本のクラブ、コーチ、メンバーそれぞれのニーズにフィットさせるべく、「チーム」のコンセプトを加えた「スモールチームトレーニング（以下、STT）」にアレンジして展開を進めている。

「SGTの日本導入に際しては、トライブの運営に成功しているゲインズビルヘルス&フィットネスをはじめ、導入しているクラブ経営者やオーナー、参加しているメンバーの利用動向や声、導入後の会員数の変化や収益性を含め、様々なインタビューを実施しました。日本においては、幼少期から団体・集団行動の教育がなされており、フィットネスクラブでもグループエクササイズの参加率が高いことに着目し、〝チーム〟コンセプトを付加しました。STTを導入することで、より有意義なコミュニティを形成できると考えました。トライブ本部とも検討を重ねて、6週間を1クールとして、その期間は同じメンバーと同じトレーナーとレッスンを行う提供スタイルを構築するに至りました」

エクササイズの効果と継続率、収益率を高めるスモールグループトレーニング

ニュージーランド生まれ

トライブは、ニュージーランドに拠点を置いて活動する、スー・リチャードさんが開発。2012年から世界に向けて展開をスタートし、これまでに世界10ヶ国200クラブ以上に導入されている。開発者のスー・リチャードさんは、ニュー・ブランズウィック大学（カナダ）スポーツ&エクササイズ科学専攻の学位を持ち、約25年に渡りフィットネス業界の最前線で活動。「グループエクササイズインストラクター」「パーソナルトレーナー」「インターナショナルプレゼンター」「クラブオーナー」「子供4人の母親」など多彩な経歴の中で、フィットネス関係者やそこに関わるステークホルダーに、より大きな成果を得てもらう取り組みを進めてきている。トライブの開発から現在も「TRIBEマスターコーチ」として指導者の育成に携わっている。

これまでにプログラムは全5種類あるが、日本では、ファンクショナルトレーニングの「Tribe LIFE」、HIITトレーニングの「TribeFIT」、コアトレーニングの「TribeCORE」、子ども向けの「TribeKIDS」を導入。現状では、地方都市に立地するクラブでのTribeKIDSで、一早く成功事例が増えている。今後も日本のクラブ、コーチ、メンバーのニーズに合わせたプログラム展開で、SGT市場を開拓していくことを目指している。

世界的に注目されるスモールグループトレーニングに、チームのコンセプトを付加

開発したのはこの方！

スー・リチャードさんは、フィットネス業界歴25年。指導者であり、クラブオーナーであり、ママでもある。プログラムの開発とともに指導者育成にも力を入れる。

日本の教育にも沿うチームコンセプトは子どもにも人気

お話を訊いた方
酒井東吾さん
株式会社プライムエデュケーション
代表取締役

ラディカルフィットネス

ファンクラブのような、コミュニティがフィットネスに新たな価値をもたらす

ラディカルフィットネスシリーズは、2004年にアルゼンチンで誕生、2007年からプライムエデュケーションにより日本に導入されているプレコリオプログラム。現在までに11種類のプログラムが開発され、世界45ヶ国に導入されている。日本でも800クラブに導入され、指導者数も約3,000人と広く浸透するプログラムとなっている。

その人気を支える大きな要因が、強いブランドコミュニティにあると、プライムエデュケーション代表取締役の酒井東吾さんは分析する。

「特に顕著なのが格闘技プログラムのファイドゥで、マスタートレーナーや参加者仲間との強い心理的繋がりを持ち、レッスンやイベントでは、ファイドゥのオリジナルウェアやグッズを身に着け、レッスンでの一体感に惹かれて参加し続ける人が増えています。年1回開催しているイベントも2,000人規模となり、ファンクラブのようなコミュニティになっています」

参加者とオフィシャルトレーナーに寄り添う、プレフォーマットプログラム

アルゼンチン生まれ

ラディカルフィットネスを創ったのは、90年代初頭に、競技エアロビクスの世界大会で活躍したナサニエル・レイバスさん。その世界的なネットワークと経験から、ニュージーランドの大手プログラム開発企業で、プレコリオプログラムの開発に関わるようになる。その後、競技エアロビクスでチームを組んでいた3人（内1人は妻でビジネスパートナーのガブリエラ・レイバスさん）で、ラディカルフィットネスを設立。以来アルゼンチンを拠点に、世界に向けてプレコリオプログラムの開発～配信を行ってきている。

ラディカルフィットネスの特徴は、プレコリオプログラムの中でも、オフィシャルトレーナーがアレンジできる部分が多いこと。ナサニエルさんが独自のブランドでプログラムの開発と配信をスタートしたのも、一つには、その日のお客さまに合うレッスンが提供したかったこと、そして、オフィシャルトレーナー一人ひとりの個性を活かすべきだと考えたことがきっかけとなっている。

近年、フィットネスが浸透するにつれて参加者も多様化しており、プレコリオプログラムも、プレフォーマットにトレンドが移行しつつある。プレフォーマットとは、レッスン全体の流れは決まっているものの、コリオはインストラクターがアレンジできるという提供スタイル。ラディカルフィットネスでは、11種類のプログラムの基本構成とコリオは、それぞれの分野のプロフェッショナルがつくり、3ヶ月ごとに楽曲とともに配信しているが、オフィシャルトレーナーたちはそこから学びながらも、レッスンごとのお客さまに寄り添い、自身の個性も活かして、楽しく効果的なレッスンが提供できる。ラディカルフィットネスファンが増え続けているのも、こうしたプログラムコンセプトにより、オフィシャルトレーナーたちの成長や、プログラムの進化が促されていることに他ならない。

今後は、プレフォーマットというプログラムの柔軟性を活かして、新たな市場の創出にチャレンジしていく計画だ。オンラインコミュニティや、コーポレートウェルネス分野でも、仲間との繋がりを感じながら、フィットネスが継続できる環境を提供していく。

開発したのはこの方！

ナサニエル・レイバスさんと、妻のガブリラ・レイバスさん。世界でも指折りのコリオグラファー。

日本のマスタートレーナー陣。情熱をもってオフィシャルトレーナーに寄り添い、質の高い教育を提供することをミッションとしている。

お話を訊いた方
鍵谷健さん
株式会社リアルスタイル
代表取締役

ビーレジェンド

機能にこだわったハイクオリティ・ロープライス商品で アスリートの衣食住をサポート

ビーレジェンドは、2011年に発売を開始したプロテインを中心としたスポーツサプリメントブランド。日本のサプリメント市場では後発ながら、プロテイン市場でトップクラスのシェアを持つまでに急成長してきている。最高品質の原料を惜しみなく使ったうえで、「飲みやすさ」「おいしさ」「リーズナブルな価格設定」にこだわり、親しみやすいネーミングも手伝って支持を広げた。スピーディに信頼とブランド力をつけるべく、ビーレジェンドの生みの親である株式会社リアルスタイル代表の鍵谷健さんが自らアスリートたちが集まる試合やイベントに参加しては試飲、販売会に立ち、ダイレクトに思いを伝える一方で、食品や飲料などの製品技術が審査されるモンドセレクションに出品。初出品の2015年から5年連続で最高ランクの最高金賞を受賞した。2017年には世界84ヶ国3,000もの製品の中から、「ビーレジェンド ベリベリベリー風味」が審査員特別賞として世界ナンバーワンに選ばれ、拡販に弾みをつけた。

「ベストな商品をロープライスで提供することで、スポーツ業界やアスリートに貢献したいという強い思いがあります。プロテインについては、安心して飲み続けていただけるように、放牧で天然の牧草で育った牛の生乳からつくったホエイプロテインを使用し、味や溶けやすさについても、添加物を一切使わず製造方法を繰り返し工夫して実現してきました。無理なく飲み続けられる価格設定にも当初からこだわり、お菓子のようなネーミングと味で、一人でも多くのアスリートに届けたいと思っています」

自分を支えてくれたスポーツに貢献する、伝説のブランドを目指して

日本生まれ

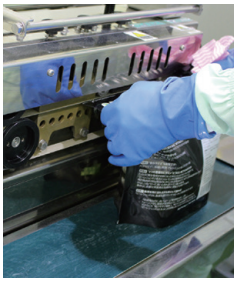
ビーレジェンドを開発販売する株式会社リアルスタイルは、2004年、ソフトテニスのコーチングノウハウを収録したカセットテープの販売からスタート。創業社長の鍵谷さんは、このテープ販売をスタートした頃は、テニスショップ社員として、営業兼テニスコーチとして働きながら起業の可能性を伺っていた。当時信奉していたテニス指導者の濱中嘉彦氏とコーチングノウハウを広げることでテニスプレイヤーたちの役に立てると考え、インタビューを収録、「濱中流指導法テープ」を発売するに至る。これが1年で2,000本を売り上げて独立を決意。すぐさま教材ラインナップを拡充し、3年間で年商1億円を達成した。さらに自身の販促手法や起業経験をDVD化すると、講演の依頼も増え、事業を急拡大させていった。

そのDVD事業収入を基盤に、2009年から改めて事業ドメインをスポーツに絞り込み、スポーツサプリメントの開発をスタートした。スポーツへの強い思いは学生時代の体験が大きく影響を与えているという。幼少期から運動オンチを自覚していた鍵谷さん。高校生のときに大きな転機が訪れる。友人に誘われてテニスをしてみると、ラケットを握ったのは初めてだったのにも関わらず、見事にリターンを決めた。以来、メキメキとテニスの腕を上げ、テニスコーチにまで上り詰める。この運命的なテニスとの出会いから、鍵谷さんは「やればできる」と思いを強くし、自分を成長させてくれたスポーツに貢献することに使命感を抱いたという。

2019年には、新たにアパレルブランド「LEGENDS」を立ち上げ、サプリメント同様に、高品質の機能を持ちながら、ファッションとしても高感度のウェアを買いやすい価格設定で展開していく。さらにはアスリートの衣食住をサポートしていくことを目指している。

開発したのはこの方！

鍵谷健さん。後発サプリメントメーカーとして味にもこだわり、モンドセレクションで最高金賞を連続受賞。



ハイクオリティ・ロープライスを実現しながらも、飲みやすさ、美味しさにも、とことんこだわり、製法の改良を重ねる

「一杯飲んどコーラ風味」「めろめろメロン風味」「そんなバナナ風味」など、味にもネーミングにも工夫。

新ブランド「LEGENDS」は、アスリートの「衣」でハイクオリティ・ロープライスを実現する

お話を訊いた方
ヨーク・ヴァイスハーさん
ロセオ株式会社COO

Nupp1 Fit

シェアリングサービスで
日本のフィットネス参加率を世界一に

Nupp1 Fit（ナップワンフィット）は、2019年5月22日にローンチされたばかりの、まったく新しいコンセプトのフィットネスサービス。近年、ウーバーやエアビーアンドビーをはじめとするシェアリングサービスが各分野で成長する中、このビジネスモデルを応用して、フィットネスができる場所と人をつなぐことを目指す。ユーザーの参加障壁を極力低くするべく、利用料は分単位で課金。入会も予約も不要で、思い立ったらすぐにジム利用がスタートできる環境を整えた。「好きな場所で、好きな時間に、好きなだけ」をコンセプトに、新たなフィットネス市場を開拓することを目指している。

ナップワンフィットについて、開発企業であるロセオ株式会社COOのヨーク・ヴァイスハーさんは、こう話す。

「日本のフィットネス参加率がなかなか伸びない要因に、諸外国に比べて、世帯年収に対する月会費の高さ、日常生活における余暇時間の少なさ、ジム入会手続きの煩雑さなどあると思います。こうした課題を、テクノロジーを活用して解決することで、フィットネス参加へのハードルを大きく下げられる環境が提供できると考えました。将来的にはフィットネスを起点に、新たな時間の価値を生み出したいと考えています」

フィットネス参加障壁を下げ、継続をサポートする

日本生まれ

ナップワンフィットを開発するロセオ株式会社は、2018年5月にブロックチェーン技術を活用してオンライン世界の中での信頼スコアを創出することを目指して創業した。世の中にオンラインサービスが浸透する中、商品やサービスの評価や口コミ情報が、実は自動で拡散されていたり、偽アカウントからの投稿が増加していることに課題感を持っていたからだ。だが、当初想定していたブロックチェーン技術も、仮想通貨市場で信頼性が課題視されていた時期と重なり、事業領域をピボットせざるを得なくなる。

オンラインで信頼スコアを創るうえで着目したのが、ユーザー全員が〝本人〟（実際に存在している人）であること。その〝本人かどうか〟の判断が、どの業界で重要視されているかと考えたときに、〝フィットネス・健康領域〟に焦点が当てられた。フィットネス業界の市場性を検討すると、別の側面でテクノロジーが活用できるシェアリングサービスでも、ユーザーを大きく拡大できる可能性を感じることになる。

こうして、「シェアリングエコノミー×FinTech×SaaSモデル」で、個人認証の手軽さとスムーズな決済システムを強みにしたサービスの構築に入った。フィットネスクラブでは入会時に、運動によるリスクに対応するうえでの連絡先情報や、月会費制をとっていることによる決済情報、それにともなう個人情報保護のための手続きなどが徹底されている。これは情報の信頼性の観点からは、とてもいい部分であるものの、その反面、手続きの煩雑さや会員制へのハードルがフィットネス参加障壁にもなっていると考えた。そこで、ナップワンフィットでは、電話番号と免許証などの本人確認書類、クレジットカードの3つの情報をアプリに登録するだけで、個人認証と決済が行えるようにした。ジム側に用意されている端末にQRコードをかざしてチェックイン・アウトをすると、利用情報がアカウントに紐づけられ、自動的に課金されるとともに、複数回同じジムを利用すると、月会費制への移行がレコメンドされたり、ジムの利用情報が蓄積されることで、その利用動向に合わせてフィットネスを継続できる情報サポートが得られるようになる。

テクノロジーは様々な業界で革新を起こしているが、フィットネス業界の良さを残しつつ、テクノロジーを活用することで、業界にブレークスルーを起こせる可能性がある。信頼スコアをもとに、さらに確かな価値が生み出されることを目指している。

開発したのはこの方！

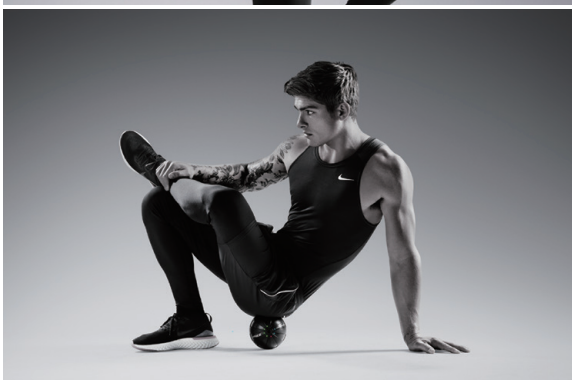
ロセオ株式会社COOヨーク・ヴァイスハーさん（中）、CTOの五所和哉さん（左）、VP of Engineeringの八子瑛貴さん（右）

3つの登録でカンタンに個人認証が完了。スマホでジムを検索して、すぐに利用がスタートできる。

お話を訊いた方
平井友梨さん
株式会社モントルー
代表取締役

HYPERVOLT / HYPERSPHERE Mini

振動テクノロジーによる筋膜リリースがトップアスリートからセルフケアとして浸透へ



ハイパーボルト／ハイパースフィアミニを開発販売するハイパーアイス社は、2010年に最新テクノロジーを搭載したアイシングデバイスで創業し、10年足らずで、コンディショニングやリカバリー分野で次々にヒット商品を生み出している。世界60ヶ国に取引先を広げ、ユーザーは世界で1万人以上に広がっている。日本でも2013年に発売開始後、これまでにプロ野球12球団、サッカーJリーグ全チームに導入され、治療院や整骨院、メイクアップアーティストなど幅広いスペシャリストから注目されている。効果的なセルフケアが行えることで大きな反響を得て、ホームフィットネス市場にも浸透。2019年5月に筋膜リリースのセルフケア機能を拡充したハイパーボルト（6月）とハイパースフィアミニ（5月）が米国で先行発売された。日本では現在予約販売受付中。これを機に、コンディショニングの重要性や、筋膜リリースの効果を啓発していきたいと、株式会社モントルー代表取締役の平井友梨さんは話す。

「日本にハイパーアイスブランドが浸透する最初のきっかけは、女子柔道選手が試合中のリカバリーとしてVYPERを使い始めたことです。日本代表チームでも、コンディショニングにあたるアスレティックトレーナーの人数や、ケアにあてられる時間は限られており、トップアスリートでもセルフケアのニーズが高いことが分かりました。そこで、JISSへの導入や、リオ五輪に向けたサポートなどを通じて、様々な種目のアスリートに活用が広がっていきました。新しく開発されたハイパーボルトでは、さらにセルフケア機能が強化されています。筋肉への圧力レベルが光で確認できたり、筋肉に当たる部分のアタッチメントが選べることで、専門的な技術がなくても、安全に効果的な筋膜リリースが行えるようになります」

昔からのリカバリー方法に、デザイン性と機能性を加えて革新をもたらす

アメリカ生まれ

ハイパーアイスの創業者で、現在も商品開発に携わるアンソニー・カッツさんは、幼少期からバスケットボールに親しみ、教員やコーチとして長くアスリートと関わってきた。近年、トレーニングに医科学的メソッドや最新テクノロジーが採り入れられる中、コンディショニングやリカバリーの方法が昔ながらの方法であることに疑問を抱き、革新的なアイシングデバイスを開発して2010年に創業。高いデザイン性と性能が注目されて、アメフトやバスケットをはじめ米国のメジャースポーツのプロアスリートから学生アスリートへと瞬く間に浸透していった。

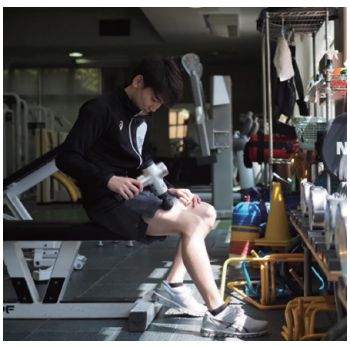
2014年には、運動能力とスポーツ医学会の世界的リーダーであるマイク・クラーク博士をアドバイザーとして迎え入れ、筋膜リリースも革新すべく、高いデザイン性を持ちつつ、効果を高める振動モーターを開発。全身をほぐすフォームローラー型のVYPER、局部にアプローチできるHYPERSPHERE、部位別のアプローチが可能なVOLTと、トップアスリートの声に応える商品開発で、立て続けにヒット商品を生み出してきている。

日本でも、短時間で効果的に筋膜リリースが行えることや、セルフケアとしても利用できることから、アスリートから一般生活者へとユーザーが広がっている。2020の東京五輪を前に、アスリートのコンディショニングやリカバリーの重要性も認識され始めている。ハイパーアイス商品が日本の健康づくりにも革新をもたらし始めている。

開発したのはこの方！

運動能力とスポーツ医科学の世界的リーダー、マイク・クラーク博士をアドバイザーとして迎え入れ、開発が加速。

ハイパーアイスの創業者アンソニー・カッツさん。昔ながらの方法が残るリカバリー分野に革新をもたらしている。



トップアスリートから一般生活者まで、セルフコンディショニングとして活用が広がっている。

HYPERICE
新商品予約受付中
HYPERSPHERE Mini
HYPERSPHERE Mini
￥12,700(税抜)
HYPERVOLT
HYPERVOLT
￥55,500(税抜)
日本総輸入販売元 HYPERICE JAPAN　株式会社モントルー https://hyperice.jp/

お話を訊いた方
木内周史さん
5Sアカデミーファウンダー（創立者）

5Sアカデミー

「解剖学」「トレーニング」「セラピー」「栄養学」「休養学」を統合的に学び パフォーマンスクリエイターとして市場を拡大する

5Sアカデミーは、2019年1月に開講されたばかりの、これまでの常識を打破する新しいコンセプトのトレーナー育成スクール。トレーナーとして活躍するうえで、「トレーニング理論」だけでなく、「栄養学」「休養学」に加えて、「解剖学」から「セラピー」にわたるまでを5大スキルとして包括的に学ぶことができることが特徴。さらに、教科書に書いてある内容や、通説とされる理論を超えて、原理原則にまでさかのぼって学ぶことができるスクールとなっている。

この5Sアカデミーの講師であり、カリキュラム開発にもあたった木内周史さんは、その思いをこう話す。

「トレーナー歴34年、トレーナー育成にも20年関わってきていますが、改めて本質的な指導力と、それをビジネスに繋げられるトレーナーを育成したいと、これまでの経験を総動員してカリキュラムもテキストもオリジナルで創りました。パーソナルトレーニング市場が成長するとともに、表面的な知識や理論だけで活動しているトレーナーも散見されます。医科学的な研究は日々進化しており、数年前に教えられていたことが、原理原則から外れていることが解明されていることも多々あります。日本でもトレーナーが活躍できる場が広がってきている今こそ、真の指導ができるトレーナーを育てたいと、これまで自分が培ってきたエッセンスをすべて授けたいと思っています」

目指すのは「パフォーマンスクリエイター」

日本生まれ

現状、日本の「パーソナルトレーナー」市場を大きく広げているのが、ボディメイクを目的としたトレーニングセッションで、トレーニングと食事のアドバイスができれば、独立できる環境がある。そんな中、木内さんが育成するトレーナー像は「パフォーマンスクリエイター」。より包括的に指導サービスを提供することで、パーソナルトレーナーとしての市場を自ら拡大できることを目指す。そのため、同スクールでは「スポーツパフォーマンス」「ライフパフォーマンス」「ビジネスパフォーマンス」の3要素を、それぞれ深く学べる構成としている。また、座学と実技を並行して行うことで、理論を実践に活かすことまでをサポート。さらに、コースの〝修了〟を目標に置くのでなく、真の実力が修得できるよう、1年間にわたり何度でも繰り返し講座を受講できることとしている。

また、「ビジネスパフォーマンス」については、ビジネスプロフェッショナルの指導サポートが得られることも大きな特徴となっている。年商1000億超の大企業から中小企業、個人のスタートアップまで800社以上のビジネスサポートを行う税理士法人リライアンスの創業オーナー税理士である大城氏から「パフォーマンスクリエイター」として、どのように活動すればビジネス面において成功できるかについてグループコンサルティングを受けることができる。

今後は、「運動」「栄養」「休養」だけでなく「衣」「食」「住」に視点を広げて、本質的な指導ができるトレーナーの育成と、その成果をサポートする商品開発も進めていくことを計画している。オンラインコンテンツも拡充し、国内外どこでも学べる環境も整備して、人々のライフパートナーとしてのパーソナルトレーナーの輩出を目指している。

5つのスキルが統合的に学べるだけでなく、座学と実技を並行して行うことで、原理原則に基づいた本質的なパーソナル指導が提供できるようになる。